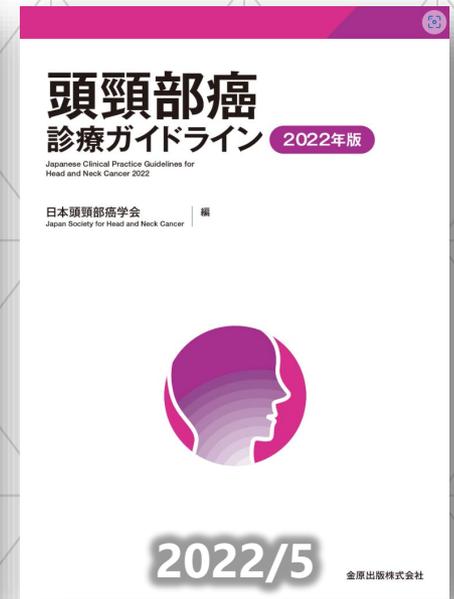


口腔・鼻腔・副鼻腔・唾液腺の 病期分類



口唇・口腔がんの病期分類

頭頸部癌のT分類のパターン

#1

サイズ

中咽頭

#1'

サイズ + α

口唇・口腔、下咽頭、大唾液腺

#2

限局/浸潤

上咽頭、喉頭、鼻腔・副鼻腔

サイズ

サイズ + α

T1 最大径が**2cm**以下

T2 最大径が**2cm**をこえ、**4cm**以下

T3 最大径が**4cm**をこえる

T4 周囲組織・部位に浸潤

T4a 切除的手術が可能

T4b 切除的手術が困難

} これらに
+ α

頭頸部癌のT分類のパターン

#1

サイズ

中咽頭

#1'

サイズ + α

口唇・口腔、下咽頭、大唾液腺

#2

限局/浸潤

上咽頭、喉頭、鼻腔・副鼻腔

限局/浸潤

T1 限局

T2 周囲組織・部位に浸潤

T3 周囲組織・部位に浸潤

T4 周囲組織・部位に浸潤

T4a 切除的手術が可能

T4b 切除的手術が困難

頭頸部癌のT分類のルール

- 2部位に渡る進展
 - 大きな部分を占める方を局在とする
 - 上皮内癌としての進展部分は、サイズとして評価しない
- 進展は二つに分けて考える
 - **表層**性進展 = 粘膜内進展はT4としない
 - **深層**性進展 = 筋・骨などへの進展

粘膜上皮(重層扁平上皮/線毛上皮) → 粘膜固有層(結合組織) → 筋/骨

上皮下層

局在と亜部位 《口唇・口腔》

- 口唇
 - 上唇/下唇
- 舌(可動部)
 - ※ 前3分の2
- 口腔底
- 口蓋
 - ※ 硬口蓋のみ
- 口腔粘膜
 - 歯槽・歯肉
 - 口腔前庭
 - 臼後部
 - 頬粘膜



ICD-O局在	診療情報所見	英語
C00.0-C00.9	口唇	Lip
C02.0-C02.3 C02.8-C02.9	舌	Tongue
C00.3-C03.9	歯槽、歯肉	Gum
C04.0-C04.9	口腔底	Floor of mouth
C05.0	硬口蓋	Hard palate
C06.0-C06.2	口腔粘膜	Mucosa of Oral Cavity
C06.9	口腔、NOS	Oral cavity, NOS

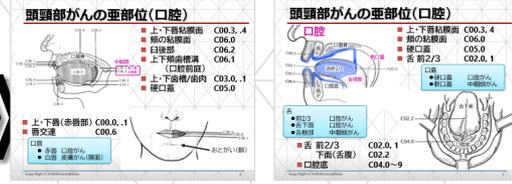
※ C02.4 舌扁桃は、中咽頭で分類

局在と亜部位《口唇・口腔》



ICD-O局在	診療情報所見	英語
C00.0	上唇 (赤唇部)	External upper lip
C00.1	下唇 (赤唇部)	External lower lip
C00.2	外側口唇 (赤唇)	External lip
C00.3	上唇粘膜	Mucosa of upper lip
C00.4	下唇粘膜	Mucosa of lower lip
C00.5	口唇粘膜	Mucosa of lip, NOS
C00.6	唇交連	Commissure of lip
C00.8	口唇の境界部病巣	Overlapping lesion of lip
C00.9	口唇、NOS	Lip, NOS
C02.0	舌背面 (舌前2/3)	Dorsal surface of tongue, NOS
C02.1	舌縁	Border of tongue
C02.2	舌下面 (舌腹)	Ventral surface of tongue, NOS
C02.3	舌の前3分の2、NOS	Anterior 2/3 of tongue, NOS
C02.8	舌の境界部病巣	Overlapping lesion of tongue
C02.9	舌、NOS	Tongue, NOS

局在と亜部位 《口唇・口腔》



ICD-O局在	診療情報所見	英語
C03.0	上歯槽・歯肉	Upper gum
C03.1	下歯槽・歯肉	Lower gum
C03.9	歯槽・歯肉、NOS	Gum, NOS
C04.0	前部口腔底	Anterior floor of mouth
C04.1	口腔底側面	Lateral floor of mouth
C04.8	口腔底の境界部病巣	Overlapping lesion of floor of mouth
C04.9	口腔底、NOS	Floor of mouth, NOS
C05.0	硬口蓋	Hard palate
C05.8	口蓋の境界部病巣	Overlapping lesion of palate
C05.9	口蓋、NOS	Palate, NOS
C06.0	頬粘膜	Cheek mucosa
C06.1	口腔前庭	Vestibule of mouth
C06.2	臼後部	Retromolar area
C06.8	その他の口腔の境界部病巣	Overlapping lesion of mouth
C06.9	口腔、NOS	Mouth, NOS

形態コード(組織型)(規約第6版補訂版)《口唇・口腔》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮内扁平上皮癌	Squamous cell carcinoma in situ, NOS	8070/2
口腔粘膜異形成	Oral epithelial dysplasia	
低異型度	Low-grade (mild~moderate dysplasia)	
高異型度	High-grade (severe dysplasia)	
増殖性疣贅状白板症	Proliferative verrucous leukoplakia	
癌腫、NOS	Carcinoma, NOS	8010/3
扁平上皮癌、NOS	Squamous cell carcinoma	8070/3
高分化型~	well diff. SCC	8070/31
中分化型~	moderately diff. SCC	8070/32
低分化型~	poorly diff. SCC	8070/33
疣贅癌、NOS	Verrucous ca., NOS	8051/3
紡錘細胞癌、NOS	Spindle cell ca., NOS	8074/3
癌肉腫、NOS	Carcinosarcoma, NOS	8980/3
移行上皮癌、NOS	Transitional ca., NOS	8120/3
リンパ上皮癌、NOS	Lymphoepithelial ca., NOS	8082/3
類基底細胞扁平上皮癌	Basaloid SCC	8083/3
乳頭状扁平上皮癌	Papillary SCC	8052/3
孔道癌	Carcinoma cuniculatum	8051/3
棘融解型扁平上皮癌	Acantholytic SCC	8075/3
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca.	8560/3

歯原性腫瘍なども発生するが、ほとんどは扁平上皮癌

T分類(UICC第8版) 《口腔・口唇》

Tis 上皮内癌

T1 最大径 $\leq 2\text{cm}$ かつ 深達度 $\leq 5\text{mm}$

T2 最大径 $\leq 2\text{cm}$ かつ $5\text{mm} < \text{深達度}$
または $2\text{cm} < \text{最大径} \leq 4\text{cm}$ かつ 深達度 $\leq 10\text{mm}$

T3 $2\text{cm} < \text{最大径} \leq 4\text{cm}$ かつ $10\text{mm} < \text{深達度}$
または $4\text{cm} < \text{最大径}$ 、かつ 深達度 $\leq 10\text{mm}$

T4a $4\text{cm} < \text{最大径}$ 、かつ $10\text{mm} < \text{深達度}$

または **口唇** 下顎骨の皮質を貫通する腫瘍、
または 下歯槽神経、口腔底、(オトガイ部 / 外鼻の)皮膚に浸潤する腫瘍

または **口腔** 下顎骨/上顎骨の骨皮質を貫通する腫瘍、
または 上顎洞に浸潤する腫瘍 または 顔面皮膚に浸潤する腫瘍

T4b **口唇**および**口腔**:

咀嚼筋間隙、翼状突起、頭蓋底に浸潤する腫瘍、
または 内頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

注: 歯肉を原発巣とし、骨および歯槽のみに表在性びらんが認められる症例は**T4a**としない

T分類(UICC第8版)

《口腔・口唇》

● 浸潤部位

浸潤方向	口唇	口腔	口唇・口腔
上	皮膚(外鼻)	上顎骨皮質(貫通) 上顎洞	頭蓋底
下	皮膚(頤部)	—	—
前(顔)	—	顔面皮膚	—
後(背)	下顎骨皮質(貫通) 下齒槽神経、口腔底	—	翼状突起、内頸動脈(全周性)
側面	—	下顎骨皮質(貫通)	咀嚼筋間隙
T分類	T4a		T4b

● 腫瘍径と深達度

腫瘍径	深達度		
	5mm以下	5mm < ~ ≤ 10mm	10mm を超える
2cm以下	T1	T2	T2
2cm < ~ ≤ 4cm	T2	T2	T3
4cm を超える	T3	T3	T4a

cN分類(UICC第8版) 《口腔・口唇》

N0 領域リンパ節転移なし

N1 同側の**単発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$
かつ **節外浸潤**なし

N2a 同側の**単発性**リンパ節転移で
 $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$ かつ **節外浸潤**なし

N2b 同側の**多発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$
かつ **節外浸潤**なし

N2c 両側 または **対側**のリンパ節転移で
最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ **節外浸潤**なし

N3a 最大径 $< 6\text{cm}$ のリンパ節転移で**節外浸潤**なし

N3b **単発性**または**多発性**リンパ節転移で**臨床的節外浸潤***あり

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

* 1)皮膚浸潤がある場合、
2)下層の筋肉もしくは隣接構造に強い固着や結合を示す軟部組織の浸潤がある場合、
3)神経浸潤の臨床的症状がある場合は、**臨床的節外浸潤**として分類する。

cN分類(UICC第8版) 《口腔・口唇》

NN因子		節外進展	最大径	側性	単発／多発
N2	N1	なし	3cm以下	同側	単発
	N2a	なし	3cm < ≤ 6cm	同側	単発
	N2b	なし	≤ 6cm	同側	多発
	N2c	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
N3	N3a	なし	6cm <	—	—
	N3b	あり	—	—	—

pN分類(UICC第8版) 《口腔・口唇》

pN0 領域リンパ節転移なし

pN1 同側の単発性リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2a 同側の単発性リンパ節転移で

最大径 $\leq 3\text{cm}$ かつ節外浸潤あり

または $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2b 同側の多発性リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2c 両側 または 対側のリンパ節転移で 最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN3a $6\text{cm} < \text{最大径}$ のリンパ節転移で 節外浸潤なし

pN3b $3\text{cm} < \text{最大径}$ のリンパ節転移で 節外浸潤あり

または 同側の多発性リンパ節転移

もしくは 対側もしくは両側のリンパ節転移で節外浸潤あり

pN分類(UICC第8版) 《口腔・口唇》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発	
↑	N1	なし	3cm以下	同側	単発	
	N2	N2a	なし	3cm < ≤6cm	同側	単発
			あり	3cm以下	同側	単発
		N2b	なし	≤6cm	同側	多発
		N2c	なし	≤6cm	両側or対側	—
		N3a	なし	6cm <	—	—
	N3	N3b	あり	3cm <	同側	単発
あり			—	同側	多発	
あり			—	両側or対側	—	

M分類(UICC第8版) 《口腔・口唇》

M0 遠隔転移なし

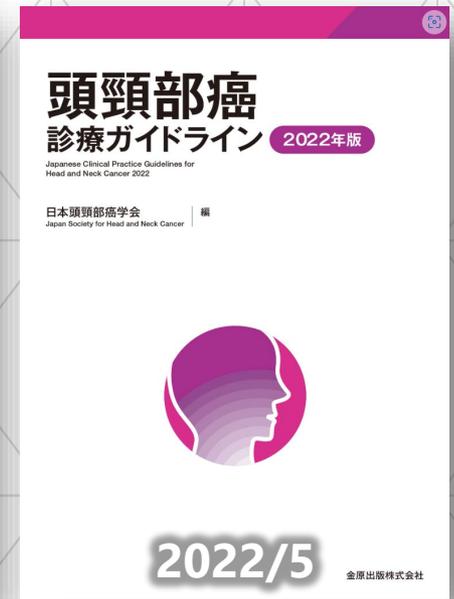
M1 遠隔転移あり

ステージ(UICC第8版) 《口腔・口唇》

UICC TNM8 (口唇・口腔)		N0	N1	N2	N3
Tis		0			
T1		I	III	IVA	IVB
T2		II	III	IVA	IVB
T3		III	III	IVA	IVB
T4	T4a	IVA	IVA	IVA	IVB
	T4b	IVB	IVB	IVB	IVB
M1		IVC	IVC	IVC	IVC

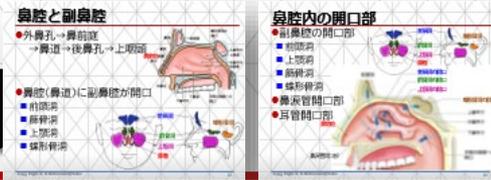
進展度(UICC第8版) 《口腔・口唇》

UICC TNM8 (口唇・口腔)		N0	N1	N2	N3
Tis		上皮内			
T1		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3		隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
T4	T4a	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
	T4b	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
M1		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移



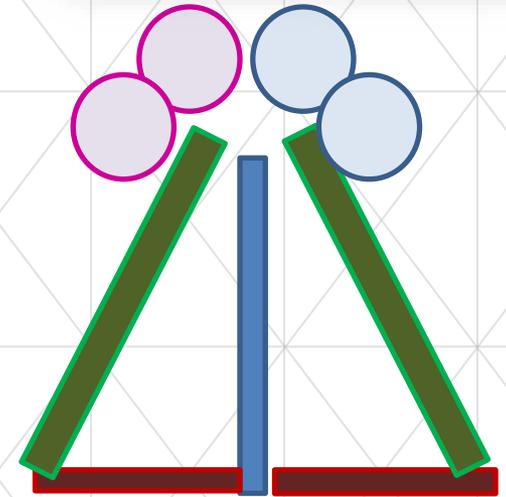
鼻腔・篩骨洞がんの病期分類

局在と亜部位 《鼻腔・篩骨洞



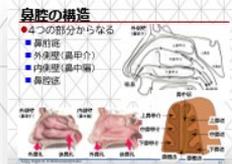
- 鼻腔
 - 外側壁(鼻甲介)
 - 内側壁(鼻中隔)
 - 鼻腔底
 - 鼻前庭
- 篩骨洞
 - 左/右篩骨洞

- 亜部位
- 鼻腔
- ◆ 鼻中隔
 - ◆ 鼻腔底
 - ◆ 外側壁
 - ◆ 鼻前庭
- 篩骨洞
- 右篩骨洞
 - 左篩骨洞

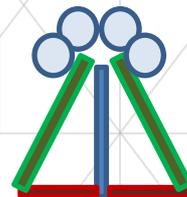


ICD-O局在	診療情報所見	英語
C30.0	鼻腔 鼻甲介 鼻中隔 鼻腔底 鼻前庭	Nasal Cavity Nasal turbinate Nasal septum Nasal base Vestibule of Nose
C31.1	篩骨洞	Ethmoid sinus
C31.9	副鼻腔、NOS	

T分類(UICC第8版)《鼻腔・篩骨洞》



三叉神経(V) V1 眼神経
V2 上顎神経
V3 下顎神経



亜部位
鼻腔
鼻中隔 ◆
鼻腔底 ◆
外側壁 ◆
鼻前庭
篩骨洞
右篩骨洞
左篩骨洞

- Tis** 上皮内癌
- T1** 骨浸潤の有無に関係なく、
鼻腔または篩骨洞の1亜部位に局限する腫瘍
- T2** 骨浸潤の有無に関係なく、
鼻腔もしくは篩骨洞の2つの亜部位に浸潤する腫瘍、
または鼻腔および篩骨洞の両方に浸潤する腫瘍
- T3** 眼窩内側壁または眼窩底、上顎洞、口蓋、篩板のいずれかに
浸潤する腫瘍
- T4a** 次のいずれかに浸潤する腫瘍: 眼窩内容前部、外鼻の皮膚、
頬部の皮膚、前頭蓋窩(軽度進展)、翼状突起、蝶形骨洞、
前頭洞
- T4b** 次のいずれかに浸潤する腫瘍: 眼窩尖端、硬膜、脳、中頭蓋窩、
三叉神経第二枝(V2)以外の脳神経、上咽頭、斜台

T分類(UICC第8版) 《鼻腔・副鼻腔》

● 浸潤部位

浸潤方向		T3	T4a	T4b
上	篩板		前頭蓋窩、前頭洞、蝶形骨洞	硬膜、脳、中頭蓋窩
下	口蓋			
前(顔)			外鼻の皮膚、前頭洞、前頭蓋窩	
後(背)			翼状突起、蝶形骨洞	眼窩尖端、上咽頭、斜台
内側面				
外側面	眼窩内側壁、眼窩底、上顎洞		外鼻の皮膚、頬部の皮膚	眼窩尖端、脳神経

● 亜部位

浸潤	T1	T2
亜部位	1亜部位	2亜部位、鼻腔と篩骨洞両方

cN分類(UICC第8版)《鼻腔・篩骨洞》

N0 領域リンパ節転移なし

N1 同側の**単発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$
かつ**節外浸潤**なし

N2a 同側の**単発性**リンパ節転移で
 $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$ かつ**節外浸潤**なし

N2b 同側の**多発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$
かつ**節外浸潤**なし

N2c 両側 または **対側**のリンパ節転移で
最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ**節外浸潤**なし

N3a 最大径 $< 6\text{cm}$ のリンパ節転移で**節外浸潤**なし

N3b **単発性**または**多発性**リンパ節転移で**臨床的節外浸潤***あり

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

- * 1)皮膚浸潤がある場合、
2)下層の筋肉もしくは隣接構造に強い固着や結合を示す軟部組織の浸潤がある場合、
3)神経浸潤の臨床的症状がある場合は、**臨床的節外浸潤**として分類する。

cN分類(UICC第8版) 《鼻腔・篩骨洞》

NN因子		節外進展	最大径	側性	単発／多発
N2	N1	なし	3cm以下	同側	単発
	N2a	なし	$3\text{ cm} < \leq 6\text{ cm}$	同側	単発
	N2b	なし	$\leq 6\text{ cm}$	同側	多発
	N2c	なし	$\leq 6\text{ cm}$	両側or対側	—
N3	N3a	なし	$6\text{ cm} <$	—	—
	N3b	あり	—	—	—

pN分類(UICC第8版)《鼻腔・篩骨洞》

pN0 領域リンパ節転移なし

pN1 同側の単発性リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2a 同側の単発性リンパ節転移で

最大径 $\leq 3\text{cm}$ かつ節外浸潤あり

または $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2b 同側の多発性リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2c 両側 または 対側のリンパ節転移で 最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN3a $6\text{cm} < \text{最大径}$ のリンパ節転移で 節外浸潤なし

pN3b $3\text{cm} < \text{最大径}$ のリンパ節転移で 節外浸潤あり

または 同側の多発性リンパ節転移

もしくは 対側もしくは両側のリンパ節転移で節外浸潤あり

pN分類(UICC第8版)《鼻腔・篩骨洞》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発	
↑	N1	なし	3cm以下	同側	単発	
	N2	N2a	なし	3cm < ≤6cm	同側	単発
			あり	3cm以下	同側	単発
		N2b	なし	≤6cm	同側	多発
		N2c	なし	≤6cm	両側or対側	—
		N3a	なし	6cm <	—	—
	N3	N3b	あり	3cm <	同側	単発
あり			—	同側	多発	
あり			—	両側or対側	—	

M分類(UICC第8版)《鼻腔・篩骨洞》

M0 遠隔転移なし

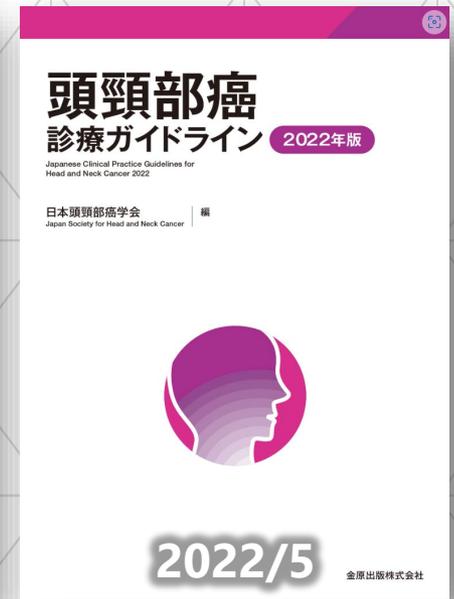
M1 遠隔転移あり

ステージ(UICC第8版)《鼻腔・篩骨洞》

UICC TNM8 (鼻腔・篩骨洞)		N0	N1	N2	N3
Tis		0			
T1		I	III	IVA	IVB
T2		II	III	IVA	IVB
T3		III	III	IVA	IVB
T4	T4a	IVA	IVA	IVA	IVB
	T4b	IVB	IVB	IVB	IVB
M1		IVC	IVC	IVC	IVC

進展度(UICC第8版)《鼻腔・篩骨洞》

UICC TNM8 (鼻腔・篩骨洞)		N0	N1	N2	N3
Tis		上皮内			
T1		局限	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2		局限	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3		隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
T4	T4a	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
	T4b	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
M1		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

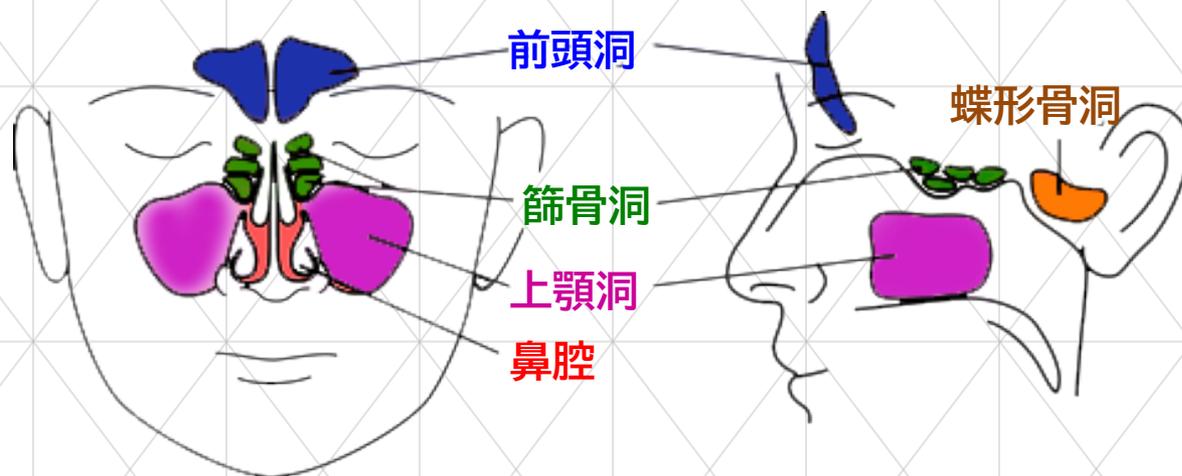


上顎洞がんの病期分類

局在と亜部位

《上顎洞》

- 副鼻腔
 - 前頭洞
 - 上顎洞
 - 篩骨洞
 - 蝶形骨洞



ICD-O局在	診療情報所見	英語
C31.0	上顎洞	Maxillary sinus
C31.1	篩骨洞	Ethmoid sinus
C31.2	前頭洞	Frontal sinus
C31.3	蝶形骨洞	Sphenoid sinus
C31.8	副鼻腔の境界部病巣	
C31.9	副鼻腔、NOS	

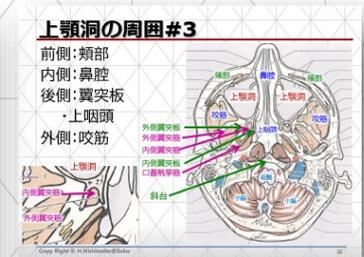
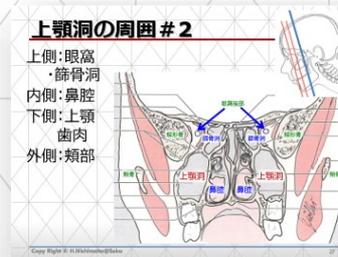
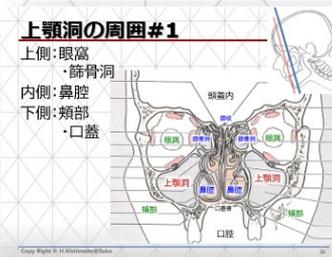
T分類(UICC第8版) 《上顎洞》

- Tis** 上皮内癌
- T1** 上顎洞粘膜に局限する腫瘍、骨吸収または骨破壊を認めない
- T2** 骨吸収または骨破壊のある腫瘍、硬口蓋および/または中鼻道に進展する腫瘍を含む(上顎洞後壁および翼状突起に進展する腫瘍を除く)
- T3** 次のいずれかに浸潤する腫瘍: 上顎洞後壁の骨、皮下組織、眼窩底または眼窩内側壁、翼突窩、篩骨洞
- T4a** 次のいずれかに浸潤する腫瘍: 眼窩内容前部、頬部皮膚、翼状突起、側頭下窩、篩板、蝶形骨洞、前頭洞
- T4b** 次のいずれかに浸潤する腫瘍: 眼窩尖端、硬膜、脳、中頭蓋窩、三叉神経第二枝(V2)以外の脳神経、上咽頭、斜台

T分類(UICC第8版) 《上顎洞》

● 浸潤部位

浸潤方向		T3	T4a	T4b
上	眼窩		眼窩内容前部、 篩板、篩骨洞、前頭洞	眼窩尖端、硬膜、脳、中頭蓋窩、 上咽頭、斜台
下				
前 (顔)			頬部皮膚、眼窩内容前部	
後 (背)	翼突窩		翼状突起、蝶形洞	眼窩尖端、中頭蓋窩、 脳神経、上咽頭、斜台
側面			側頭下窩	



cN分類(UICC第8版) 《上顎洞》

N0 領域リンパ節転移なし

N1 同側の**単発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$
かつ**節外浸潤**なし

N2a 同側の**単発性**リンパ節転移で
 $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$ かつ**節外浸潤**なし

N2b 同側の**多発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$
かつ**節外浸潤**なし

N2c 両側 または 対側のリンパ節転移で
最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ**節外浸潤**なし

N3a 最大径 $< 6\text{cm}$ のリンパ節転移で**節外浸潤**なし

N3b **単発性**または**多発性**リンパ節転移で**臨床的節外浸潤***あり

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

* 1)皮膚浸潤がある場合、
2)下層の筋肉もしくは隣接構造に強い固着や結合を示す軟部組織の浸潤がある場合、
3)神経浸潤の臨床的症狀がある場合は、**臨床的節外浸潤**として分類する。

cN分類(UICC第8版) 《上顎洞》

共通

N因子		節外進展	最大径	側性	単発／多発	
↑	N1	なし	3cm以下	同側	単発	
	N2	N2a	なし	3cm < ≤6cm	同側	単発
		N2b	なし	≤6cm	同側	多発
		N2c	なし	≤6cm	両側or対側	—
	N3	N3a	なし	6cm <	—	—
N3b		あり	—	—	—	

pN分類(UICC第8版) 《上顎洞》

pN0 領域リンパ節転移なし

pN1 同側の単発性リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2a 同側の単発性リンパ節転移で

最大径 $\leq 3\text{cm}$ かつ節外浸潤あり

または $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2b 同側の多発性リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN2c 両側 または 対側のリンパ節転移で 最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし

pN3a $6\text{cm} < \text{最大径}$ のリンパ節転移で 節外浸潤なし

pN3b $3\text{cm} < \text{最大径}$ のリンパ節転移で 節外浸潤あり

または 同側の多発性リンパ節転移

もしくは 対側もしくは両側のリンパ節転移で節外浸潤あり

pN分類(UICC第8版) 《上顎洞》

共通

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発		
N1	N1	なし	3cm以下	同側	単発		
		N2	なし	3cm < ≤ 6cm	同側	単発	
			あり	3cm以下	同側	単発	
		N2b	なし	≤ 6cm	同側	多発	
		N2c	なし	≤ 6cm	両側or対側	—	
		N3	N3a	なし	6cm <	—	—
			N3b	あり	3cm <	同側	単発
あり	—			同側	多発		
あり	—	両側or対側		—			

M分類(UICC第8版) 《上顎洞》

M0 遠隔転移なし

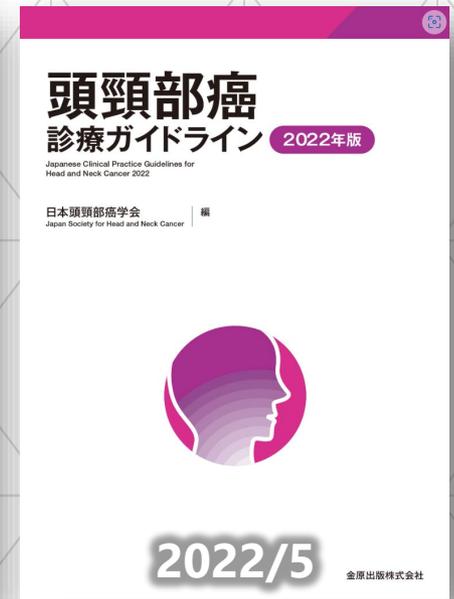
M1 遠隔転移あり

ステージ(UICC第8版) 《上顎洞》

UICC TNM8 (上顎洞)		N0	N1	N2	N3
Tis		0			
T1		I	III	IVA	IVB
T2		II	III	IVA	IVB
T3		III	III	IVA	IVB
T4	T4a	IVA	IVA	IVA	IVB
	T4b	IVB	IVB	IVB	IVB
M1		IVC	IVC	IVC	IVC

進展度(UICC第8版) 《上顎洞》

UICC TNM8 (上顎洞)		N0	N1	N2	N3
Tis		上皮内			
T1		局限	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2		局限	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3		隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
T4	T4a	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
	T4b	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
M1		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

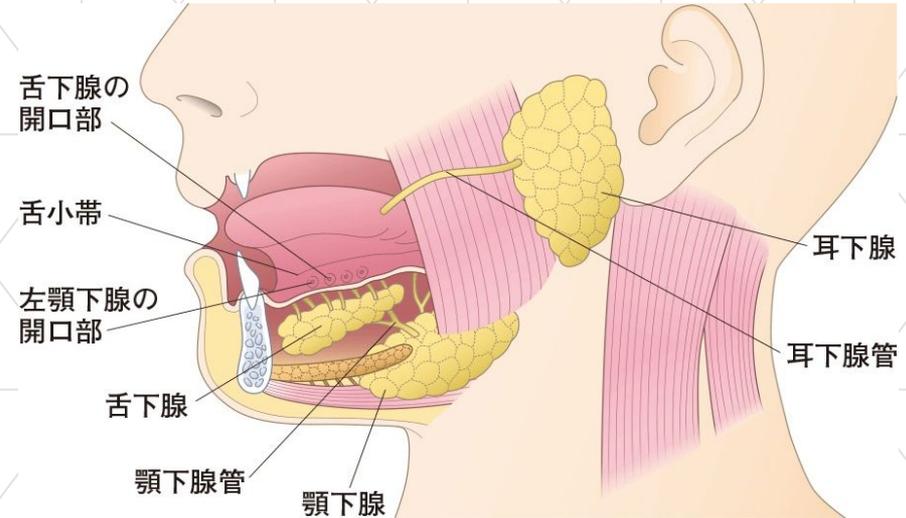


唾液腺がんの病期分類

局在と亜部位

《大唾液腺》

- 大唾液腺
 - 耳下腺
 - 顎下腺
 - 舌下腺



ICD-O局在	診療情報所見	英語
C07.9	耳下腺 ステノン管	Parotid gland Stenon's duct
C08.0	顎下腺 ワルトン管	Submandibular gland Wharton's duct
C08.8	舌下腺	Sublingual gland
C08.8	大唾液腺の境界部病巣	
C08.9	大唾液腺、NOS	
C06.9	小唾液腺、NOS	

T分類(UICC第8版) 《大唾液腺》

- Tis** 上皮内癌
- T1** 最大径 ≤ 2 cmの腫瘍で、実質外進展* なし
- T2** $2\text{cm} < \text{最大径} \leq 4\text{cm}$ の腫瘍で、実質外進展* なし
- T3** $4\text{cm} < \text{最大径}$ の腫瘍、
および/または 実質外進展* を伴う腫瘍
- T4a** 皮膚、下顎骨、外耳道、
および/または 顔面神経に浸潤する腫瘍
- T4b** 頭蓋底 および/または 翼状突起に浸潤する腫瘍、
および/または 頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍

* 実質外進展とは

臨臨床的 または肉眼的に軟部組織または神経に浸潤しているものをいう。
ただし、**T4a** および**T4b**に定義された組織への浸潤は除く。
顕微鏡的証拠のみでは臨床分類上、実質外進展とはならない。

cN分類(UICC第8版) 《大唾液腺》

N0 領域リンパ節転移なし

N1 同側の**単発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 3\text{cm}$
かつ **節外浸潤なし**

N2a 同側の**単発性**リンパ節転移で
 $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$ かつ **節外浸潤なし**

N2b 同側の**多発性**リンパ節転移で最大径 $\leq 6\text{cm}$
かつ **節外浸潤なし**

N2c 両側 または **対側**のリンパ節転移で
最大径 $\leq 6\text{cm}$ かつ **節外浸潤なし**

N3a 最大径 $< 6\text{cm}$ のリンパ節転移で**節外浸潤なし**

N3b **単発性**または**多発性**リンパ節転移で**臨床的節外浸潤***あり

- 単発、多発
- 最大径
- 同側、両側/対側
- 節外浸潤

* 1)皮膚浸潤がある場合、
2)下層の筋肉もしくは隣接構造に強い固着や結合を示す軟部組織の浸潤がある場合、
3)神経浸潤の臨床的症状がある場合は、**臨床的節外浸潤**として分類する。

cN分類(UICC第8版) 《大唾液腺》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発/多発	
↑	N1	なし	3cm以下	同側	単発	
	N2	N2a	なし	3cm < ≤ 6cm	同側	単発
		N2b	なし	≤ 6cm	同側	多発
		N2c	なし	≤ 6cm	両側or対側	—
	N3	N3a	なし	6cm <	—	—
N3b		あり	—	—	—	

pN分類(UICC第8版) 《大唾液腺》

- pN0 領域リンパ節転移なし
- pN1 同側の単発性リンパ節転移で最大径 ≤ 3 cm かつ節外浸潤なし
- pN2a 同側の単発性リンパ節転移で
最大径 ≤ 3 cm かつ節外浸潤あり
または $3\text{cm} < \text{最大径} \leq 6\text{cm}$ かつ節外浸潤なし
- pN2b 同側の多発性リンパ節転移で最大径 ≤ 6 cm かつ節外浸潤なし
- pN2c 両側または対側のリンパ節転移で最大径 ≤ 6 cm かつ節外浸潤なし
- pN3a $6\text{cm} < \text{最大径}$ のリンパ節転移で節外浸潤なし
- pN3b $3\text{cm} < \text{最大径}$ のリンパ節転移で節外浸潤あり
または同側の多発性リンパ節転移
もしくは対側もしくは両側のリンパ節転移で節外浸潤あり

pN分類(UICC第8版) 《大唾液腺》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発	
↑	N1	なし	3cm以下	同側	単発	
	N2	N2a	なし	3cm < ≤6cm	同側	単発
			あり	3cm以下	同側	単発
		N2b	なし	≤6cm	同側	多発
		N2c	なし	≤6cm	両側or対側	—
		N3a	なし	6cm <	—	—
	N3	N3b	あり	3cm <	同側	単発
あり			—	同側	多発	
あり			—	両側or対側	—	

M分類(UICC第8版) 《大唾液腺》

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

ステージ(UICC第8版) 《大唾液腺》

UICC TNM8 (大唾液腺)		N0	N1	N2	N3
Tis		0			
T1		I	III	IVA	IVB
T2		II	III	IVA	IVB
T3		III	III	IVA	IVB
T4	T4a	IVA	IVA	IVA	IVB
	T4b	IVB	IVB	IVB	IVB
M1		IVC	IVC	IVC	IVC

進展度(UICC第8版) 《大唾液腺》

UICC TNM8 (大唾液腺)		N0	N1	N2	N3
Tis		上皮内			
T1		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3		隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
T4	T4a	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
	T4b	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
M1		遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移